

野 沢 菜

1 畑の準備

土作り

種まきの2週間前までに苦土石灰、堆肥をまきまします。しっかりと土壌混和をしておきましょう。

※連作障害が起こるので連作は避けましょう。出来れば3～4年の休耕を含む輪作(毎年マメ科、ナス科、ウリ科、アブラナ科など違うものを作る)をしましょう。

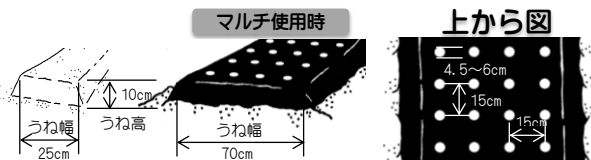
- ・苦土石灰：
1㎡あたり100～200g
- ・JAファーム有機堆肥：
1㎡あたり2～3kg



元肥・うね立て・マルチ張

種まきの1週間前までに元肥を畑全面にまき、土壌混和しうね立てを行います。マルチを張る場合はマルチを張り、穴の無いものは穴を開けます。

※根こぶ病対策をする場合は、種まき前(マルチを張る場合はマルチを張る前)に殺菌剤をまいて深さ15cmくらい土壌混和しましょう。



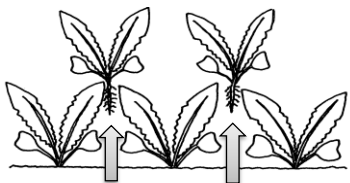
- ・JAファーム葉もの野菜専用肥料：1㎡あたり180～220g(ひと握り約40～50g)
- ・野沢菜・タマネギ用穴あき黒マルチ：95cm×50m(15×15)4条

4 間引き

間引き1回目

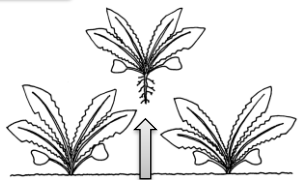
本葉2枚くらいの時が、第1回目の目安です。株と株の間隔が3～5cmになるくらいを目安に間引きしましょう。

※マルチを使用する場合は、この段階で1穴に1株になるようにしましょう。



間引き2回目(最終)

最終間引きは、本葉3～4枚頃で、その時の株間は12～15cmになるくらいを目安に間引きしましょう。

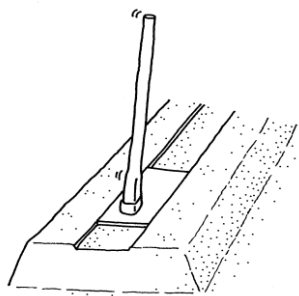


間引きワンポイント!

大株に仕上げたい場合は株と株の間を20～25cmくらいにしましょう。

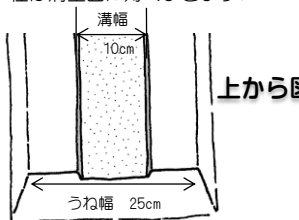
2 種まき

8月下旬～9月上旬に種まきを行う!

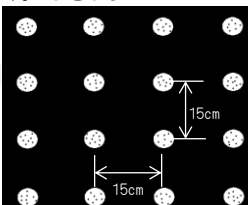


鍬や板などを使って、うねに浅く溝をつけ種をまきまします。溝の幅は10cmくらいにしましょう。(鍬を使うと12cmくらいになります。)種は溝全体に薄くまきまします。

種は溝全面に薄くまきまします。



マルチを使用する場合は、種1つまみをマルチの穴に薄くまきまします。



種をまいたら、種が隠れる程度に薄く土をかけましょう。

5 防除

病害虫防除は予防が大切なので定期的に行いましょう。農薬散布は使用時期、回数を厳守する他、栽培圃場周辺からの飛散防止にも注意しましょう。

主な病害虫

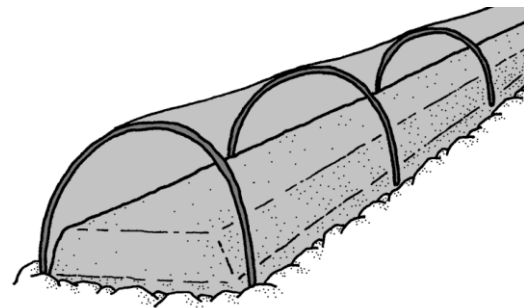
- ・アブラムシ
アブラムシはモザイク病(ウィルス病)を媒介するので、気をつけましょう。発芽直後から徹底すると大きな効果がみられます。
- ・ヨトウムシ
ヨトウムシは「夜盗虫」と書き、読んで字のごとく夜行性で、夜に葉を食害します。ふ化直後の葉裏に群棲している時に防除すると効果的です。
- ・白さび病
秋期の長雨等が発病を助長します。被害莖葉は早めに処分する。早期発見に努め、発病初期に薬剤散布を行う。

※農薬は使用方法をよく読んで正しく使いましょう。

3 防虫ネットをかける

モザイク病予防(ウィルス病)のために防虫ネットをかけます。トンネル支柱は210cmのダンボールを使い、防虫ネットの裾は土を被せておきましょう。

モザイク病の原因はアブラムシが媒介する事がほとんどです。種まき後すぐトンネルをつくり害虫の侵入を防ぎましょう。



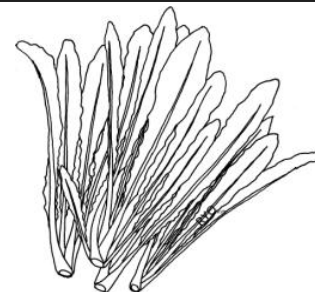
防虫ネットワンポイント!

防虫ネットは収穫の1～2週間前にはずしましょう。そうすることで霜にあわせる事ができます! ※詳しくは収穫ワンポイントにて!

6 収穫

収穫適期

- ・播種後7週間くらいたち、株が大きく育ってきたら収穫します。
- ・収穫は、根ごと引き抜いた後に、カブの部分を切り落とします。カブもまた利用できます。
- ・寒さには強く-2～3℃では枯れることなく越冬し、来春には花芽を収穫できます。



収穫ワンポイント!

冬の漬物用は、霜に2～3回あわせた後に収穫すると甘みがでます。

科名	アブラナ科
原産地	日本
連作障害	あり(3～5年)